

古代豪族 水沼の君

「日本書紀」に云う

神代上 第六段一書第三

「即ち日神の生れませる三の女神を以ては、葦原中国の宇佐嶋に降り居さしむ。今、海の北の道の中に存す。号けて道主貴と曰す。此筑紫の水沼君等が祭る神、是也。」

※1 宗像三女神、
そして日の神が生んだ三柱の女神を、葦原中国の宇佐嶋に降ろしました。現在は北海路の途中にあります。道主貴と言います。

※1 宗像三女神

景行天皇十八年七月七日

「時に水沼県主猿大海、奏して言さく、女神有します。名を八女津媛と曰す。常に山の中に居します」とまうす。故、八女国の名は、此に由りて起れり。」

すると水沼県主猿大海は言いました。

「女神がいます。名を八女津媛といます。常に山の中にいます」八女国の名前はこれによります。

雄略天皇十年九月四日

「身狭村主青等、呉の献れる二の鷺を将て、筑紫に到る。此の鷺、水間君の犬の為に喰われて死ぬ。是によりて、水間君、恐怖り憂愁えて、自ら黙あること能わずして、鴻十隻と養鳥人とを献りて、罪を贖うことを請す。天皇、許したまう。」

身狭村主青たちは呉の献上した二匹のガチョウを持って、筑紫に到着しました。このガチョウは水間君の犬に食われて死んでしまいました。それで水間君は恐怖して憂いて、自ら黙っていられなくなつて、雁10羽と養鳥人^{※2}を献上して罪を償いたいと請いました。天皇は許しました。

※2 鳥を飼う仕事の人

そこには、海を舞台にヤマト政権とつながった

筑紫の古代豪族の姿があった